

中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）

2009年7月10日 改訂4版

病院施設の規模別の感染対策の実態調査（分担研究者 西岡みどり）

【平成21年度厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業（H21-新興一般-001）

医療機関における感染症伝播に関する研究（主任研究者 切替照雄）】

はじめに

本手順書案「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）」の趣旨は、決してすべての中小規模の医療施設にサーベイランスの実施を強いるものではありません。サーベイランスを開始したいと考えている医療施設に役立てていただけるよう試作しました。なお、本手順書案では無床診療所でのサーベイランス実施は想定していません。

本手順書案での「サーベイランス」とは、医療関連感染（院内感染）の発生を防止するために、関連するデータを適時に職員へフィードバックして日常の対策に役立てる活動のことです。データは行政機関への報告のためではなく、院内の職員が日常の感染管理活動に活用するために収集します。

「サーベイランス」は日常の感染対策評価やアウトブレイク（多発）の早期察知などを目的に実施します。したがって、継続的な実践は効果的ではありますが、多忙な病院運営の中では、目的に合わせて実施期間を予め設定することも効率的です。

中小規模の医療施設では、昨今の厳しい医療事情の中、多大な労力をかけて感染対策が行われています。全国調査の結果からは、中小規模の医療施設での感染対策に大規模施設と同等の人員費がかけられていること、サーベイランス実施率が低いことなどがわかりました。（詳細は「施設規模・資源別サーベイランス実施状況調査報告書」をご覧ください。http://www.dcc.go.jp/nosocomial_infection/pdf/surveillance.pdf）

本手順書案作成にあたっては、前述の調査結果に基づいて中小規模の医療施設での実践可能性を勘案して6種類を選定しました。お試しくださる医療施設では目的に合わせて6種類の中から自由にご選択ください。また、本手順書案は施設規模に関わらず、「サーベイランスを実施したいが、急性期の医療施設で実施されているような、手術部位感染や中心静脈カテーテル関連血流感染などの種類は自施設に適さない」とお考えの医療施設にもご試用いただけます。

本手順書案は完成版ではありません。ご試用いただき、より使いやすい手順書の完成に向けて忌憚のないご意見、ご指導をいただけましたら幸いです。

2009年7月10日

作成 西岡みどり（国立看護大学校）、森那美子（国立看護大学校）、坂木晴世（東京大学大学院）
藤田烈（東京大学大学院）、沼直美（国立看護大学校）、平松玉江（国立看護大学校）
編集 西岡みどり（国立看護大学校）、森兼啓太（東北大学大学院）
問い合わせ先 survey@ncn.ac.jp

* 本手順書案は、平成21年度厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業（H21-新興-一般-001）「医療機関における感染症伝播に関する研究（主任研究者 切替照雄）」の分担研究「病院施設の規模別の感染対策の実態調査（分担研究者 西岡みどり）」により作成しました。

【本手順書案の特徴】

- 1) サーベイランスの実施をすべての中小規模の医療施設に強いるものではなく、開始したいと考える施設にご試用いただくためのものです。
- 2) 無床診療所での実施は想定していません。
- 3) 6種類のサーベイランスの手順書案で構成されています。
- 4) 次のような実施目的にあわせて6種類から自由に選択できます。
 - 職員の手指衛生（手洗い）遵守状況を数値で評価し手指衛生推進に役立てるため
 - MRSA や MDRP の多発を早期に察知して対策を講じるとともに終息を確認するため
 - 院内の黄色ブドウ球菌の薬剤耐性化の様子を知り診療に役立てるため
 - インフルエンザやノロウイルス感染の流行期に多発を早期に察知して対策を遅滞なく行うとともに、対策効果と流行終息を確認するため
 - 尿道留置カテーテル管理の適切性を数値で評価してケアの改善に役立てるため、等
- 5) 種類は次頁の表「サーベイランスの種類と目的」を参考に選択できます。
- 6) 各種類のサーベイランス手順書案は「Ⅰ.手順（フローチャート）」「Ⅱ.報告書例」「Ⅲ.ワークシート例」の3部構成です。
- 7) 手順・報告書例・ワークシート例は施設で使いやすいよう改変できます。たとえば報告書の形式でなくとも、目的によってはホワイトボードに日々の結果を記載するなどの方法も可能です。
- 8) 施設全体でも実施可能ですが、病棟のリスクを査定し対象を限定する（感染発生時の影響が大きい病棟や感染が多発している病棟に絞る）と効率的です。
- 9) 継続的な実践が効果的ですが、目的に合わせて実施期間を設定すると効率的です。
（例『全体の状況把握のために全病棟で1ヶ月間実施→もっとも対策強化が必要と判断した1つの病棟に限定してその後3~6ヶ月間継続して変化を観察→改善を確認して終了』『インフルエンザやノロウイルス感染のサーベイランスは流行期にのみ実施』）
- 10) 本手順書案は完成版ではなく、ご試用いただいてのご意見やご指導をもとに、より有用で簡便な手順書案へ改訂予定です。

表 サーバイランスの種類と目的

種類	目的	指標(単位) 分子・分母	期間	施設内報告頻度 *目的に応じて設定	感染判定	判定基準など
1. 手指衛生サーバイランス	手指衛生遵守状況評価	1患者1日あたりの手指衛生回数 (回/患者日) 分子 横式アルコール製剤使用量 (各部署の使用量) 分母 または薬剤科からの払出量 のべ入院患者日数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	なし	
	アウトブレイク察知 MRSA 対策評価	MRSA 検出 分子 MRSA 検出件数 (施設内発生・持込別) 分母 MRSA 検出件数 (同じ患者に複数検出時は月に1件) のべ入院患者日数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	なし	MRSA の判定基準は CLSI および厚生労働 省 JANIS の判定基準 に準拠
2. MRSA サーバイランス	薬剤耐性化察知 抗菌薬適正使用評価	黄色ブドウ球菌の各薬剤感受性率 (%) 分子 各薬剤の感性(S)・中間(I)・ 耐性(R)の黄色ブドウ球菌検体数 (同じ患者に複数検出時は月に1株) 分母 黄色ブドウ球菌検体数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	なし	薬剤感受性の判定基準 は CLSI および厚生労働 省 JANIS の判定基 準に準拠
	3. MDRP サーバイランス	アウトブレイク(多発) 察知	MDRP 検出件数(件) (施設内発生・持込別)	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎 (多発時は毎週)	なし
4. ノロウイルス感染&消化器症候群 サーバイランス	アウトブレイク察知 ノロウイルス対策評価	ノロウイルス感染 & 消化器症候群発生件数(件) (施設内発生・持込別、患者・職員別)	流行期 (通常は 10~3月)	毎週 (多発時は毎日等 に頻度を増加)	あり	ノロウイルス感染の判 定基準は厚生労働省感 染症発生動向調査の感 染性胃腸炎の届出基準 に準拠
5. インフルエンザ&インフルエンザ様症状 サーバイランス	アウトブレイク察知 インフルエンザ対策評価	インフルエンザ & インフルエンザ様症状発生件数 (件) (施設内発生・持込別、患者・職員別)	流行期 (通常は 10~5月)	毎週 (多発時は毎日等 に頻度を増加)	あり	インフルエンザの判定 基準は厚生労働省感染 症発生動向調査届出基 準に準拠 カテーテル関連尿路感 染の判定基準は CDC 米国疾病対策センター NHSN の判定基準に 準拠
6. カテーテル関連尿路感染サーバイランス	アウトブレイク察知 カテーテル管理評価	カテーテル関連尿路感染率 (件/1000カテーテル日) 分子 カテーテル関連尿路感染発生 件数 分母 カテーテル留置日数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	あり	

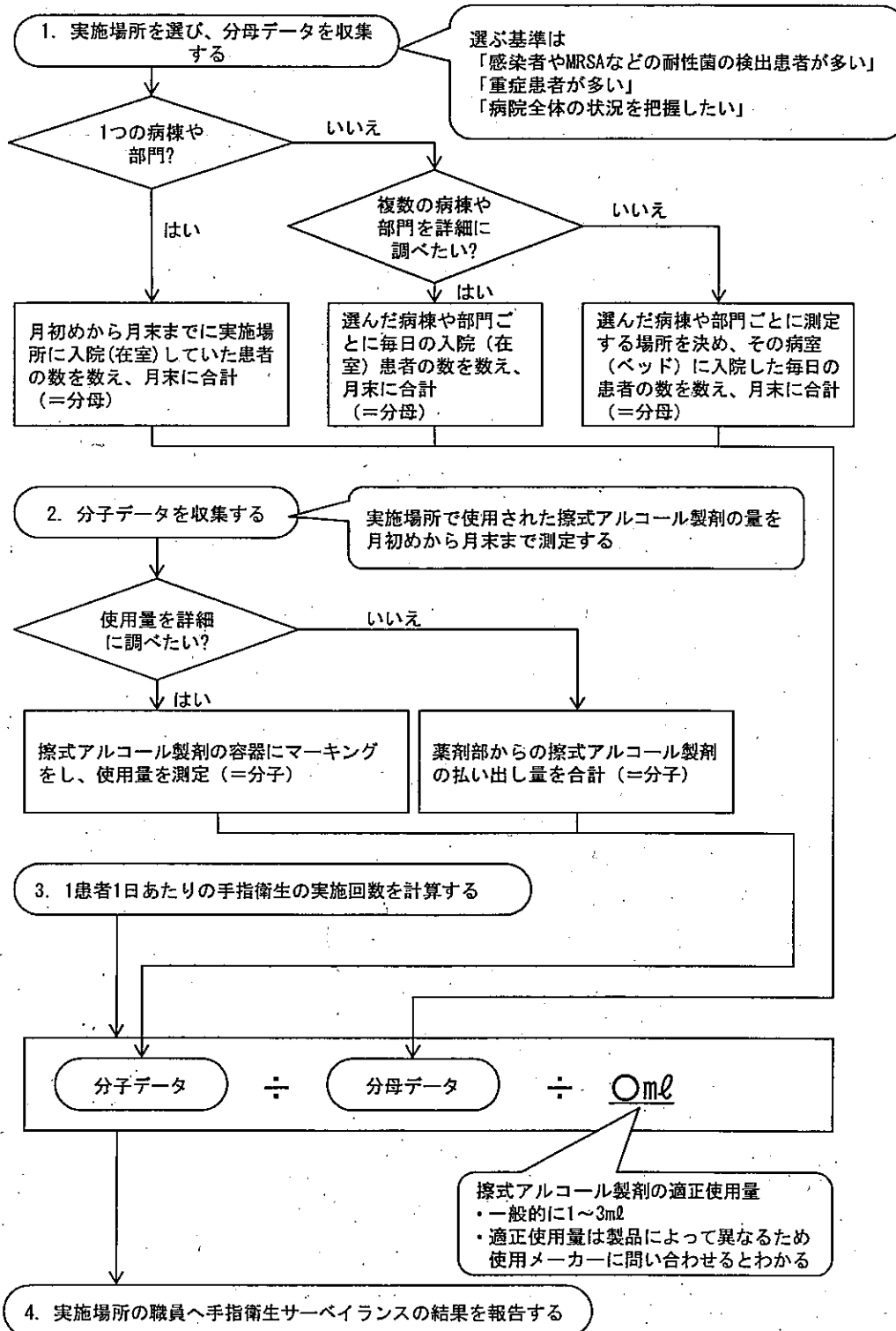
目次

中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書案

手指衛生サーベイランス	…1
MRSA サーベイランス	…6
MDRP サーベイランス	…13
ノロウイルス感染&消化器症候群サーベイランス	…17
インフルエンザ&インフルエンザ様症状サーベイランス	…21
カテーテル関連尿路感染サーベイランス	…25

手指衛生サーベイランス

I. 手順



II. 報告書例

〇〇病棟 看護師長
〇〇様

2009 年 9 月 5 日
感染管理担当 〇〇〇〇

手指衛生サーベイランス報告

貴病棟の 8 月の手指衛生サーベイランス結果をご報告します。

今年 1 月に実施した手指衛生に関する勉強会の後からは、擦式アルコール製剤による手指消毒の実施回数が増えておりましたが、7 月以降、減少の兆しがあります。再度、手指衛生の励行をお願い致します。

ご不明な点がありましたら、〇〇（内線〇〇）までご連絡ください。

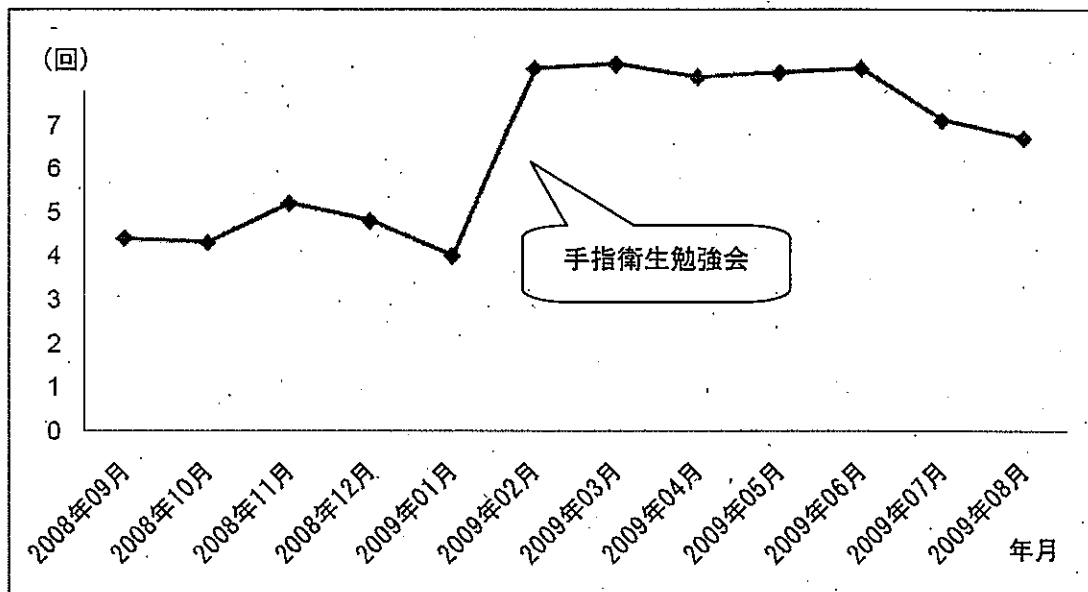


図 2008 年 9 月～2009 年 8 月の〇〇病棟における手指衛生実施回数の推移

(注) 手指衛生実施回数 (回/患者日)

=1 患者 1 日あたりの擦式アルコール製剤による手指消毒の実施回数

=擦式アルコール製剤使用量÷のべ入院患者日数÷3ml (1 回の手指消毒に必要な量)

* 擦式アルコール製剤使用量は、薬剤科から 1 か月に払い出された量

II. 報告書例 (MRSA 検出率と合わせた報告書例)

〇〇病棟 看護師長
〇〇様

2009 年 9 月 5 日
感染管理担当 〇〇〇〇

手指衛生・MRSA 検出サーベイランス報告

貴病棟の 8 月の手指衛生・MRSA 検出サーベイランス結果をご報告いたします。

今年 1 月に実施した手指衛生に関する勉強会の後から擦式アルコール製剤による手指消毒の実施回数が増えており、MRSA 検出率も低下しました。手指衛生実施の効果が表れているものと考えますが、7 月以降下降の兆しがあります。再度、手指衛生の励行をお願い致します。

ご不明な点がございましたら、〇〇 (内線〇〇) までご連絡ください。

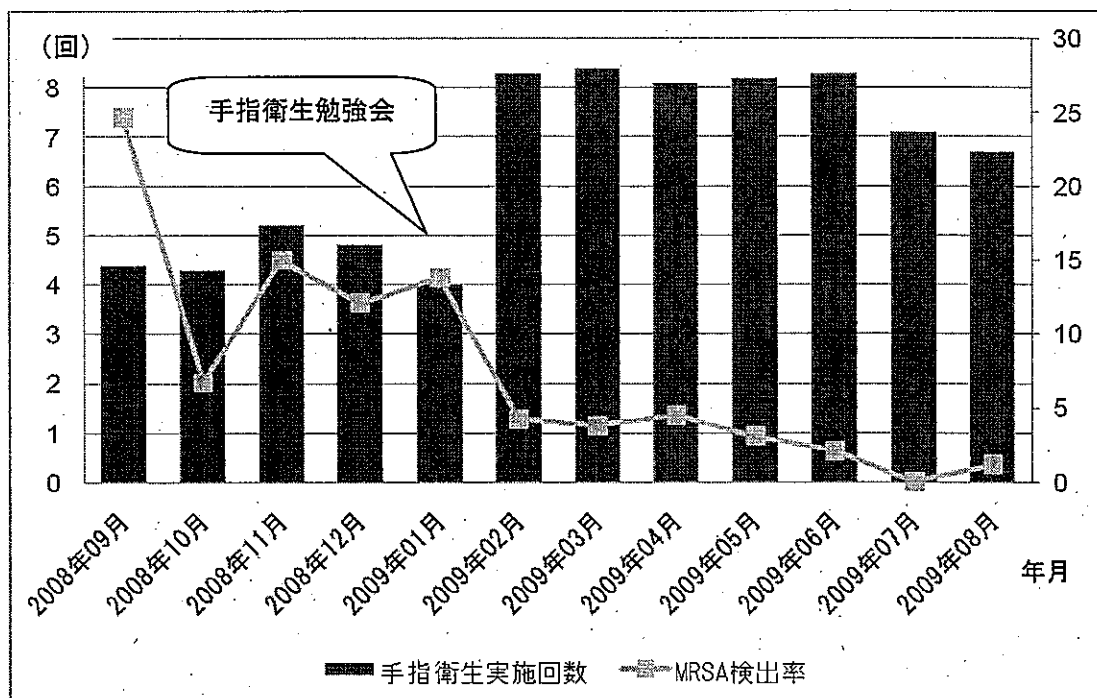


図 2008 年 9 月～2009 年 8 月の〇〇病棟における手指衛生実施回数と MRSA 検出率の推移

手指衛生実施回数 (回/患者日)

= 1 か月あたりの擦式アルコール製剤使用量 (ml) ÷ のべ入院患者日数

MRSA 検出率 (件/1000 患者日) = 1000 患者日あたりの MRSA 検出件数

= MRSA 検出件数 ÷ のべ入院患者日数 × 1000

Ⅲ. ワークシート例

1. 分母データワークシート例 その1

* 毎日〇時に入院している患者の数を記入し月末に合計する。

〇年〇月	実施場所				備考
	〇〇病棟	△△病棟	◇◇病棟	▽▽病棟	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
...					
30日					
31日					
合計(分母)					

2. 分母データワークシート例 その2

* 毎日〇時に決められた病室に入院している患者の数を記入し月末に合計する。

〇年〇月	実施場所									備考
	〇〇病棟			△△病棟			◇◇病棟			
	号室	号室	号室	号室	号室	号室	号室	号室	号室	
1日										
2日										
3日										
4日										
5日										
6日										
...										
30日										
31日										
小計										
合計(分母)										

3. 分子データワークシート例 その1

*チェック時の残量ラインにマーキングをする。

前回チェック日の残量から今回チェック時の残量を引く。

使用済みの空容器は、使用量を確認後、廃棄する。

○年○月	、 前回残量	チェック日残量	使用量 (前回残-チェック日残)	備考
使用中				
使用済み		0		
		0		
		0		
		0		
合計 (分子)				

4. 分子データワークシート例 その2

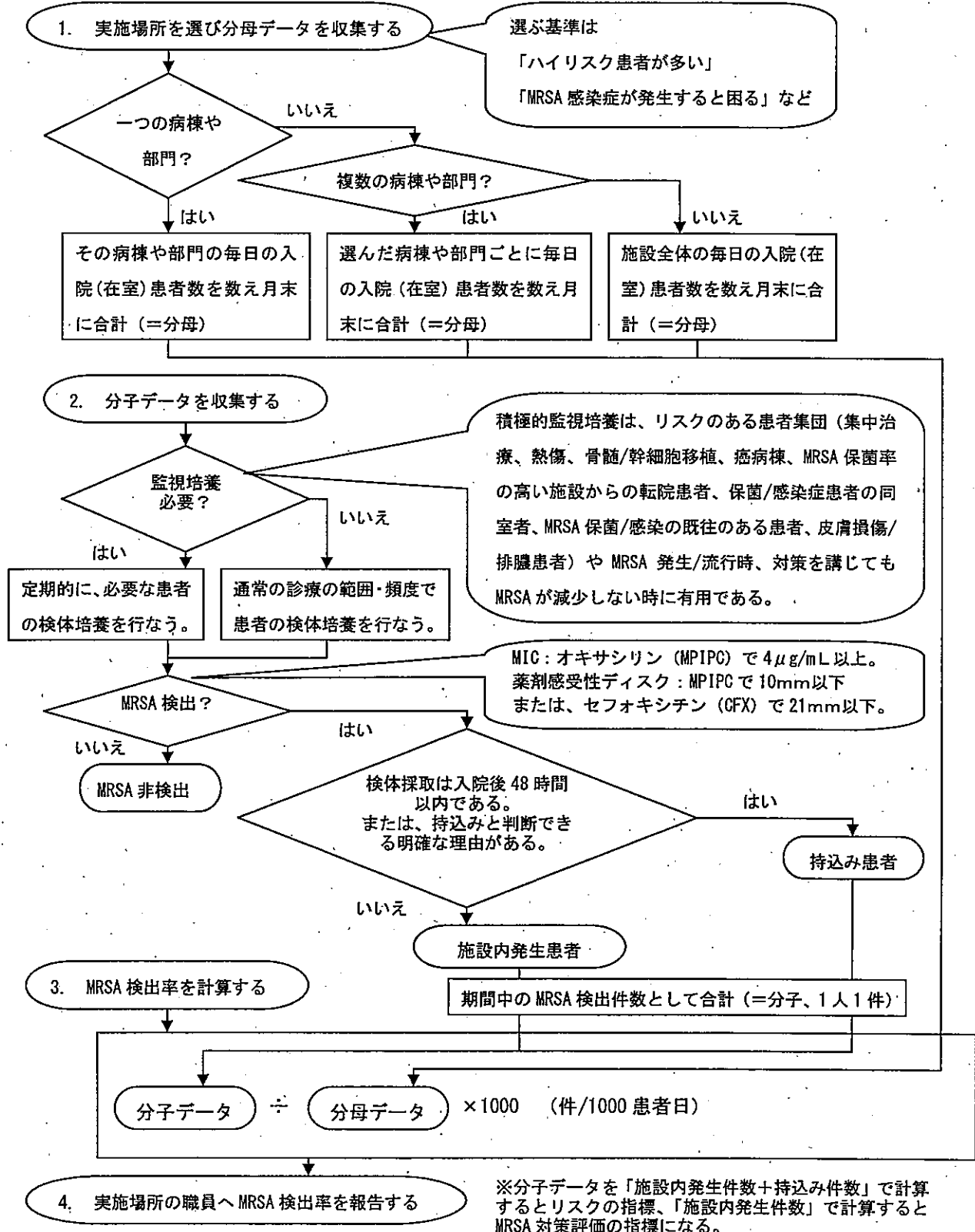
*毎月の薬剤部からの払い出し量を記入する。

○年○月	設置型 500 ml	小計 (ml)	携帯型 60 ml	小計 (ml)	合計(分子)	備考
〇〇病棟						
△△病棟						
◇◇病棟						
▽▽病棟						

MRSA サーベイランス

A. MRSA 検出サーベイランス

I. 手順



II. 報告書例 (MRSA 検出サーベイランス)

〇〇病棟 看護師長
〇〇様

2009 年 6 月 5 日
感染管理担当 〇〇〇〇

MRSA 検出サーベイランス報告

貴病棟の 2008 年 6 月から 2009 年 5 月までの MRSA 検出サーベイランス結果をご報告します。
昨年 7 月のプラスチックエプロン導入後は検出率が低く推移していましたが、本年 4 月以降、上昇の兆しがあります。接触予防策の実施を再度ご点検ください。
ご不明な点がありましたら、〇〇 (内線〇〇) までご連絡ください。

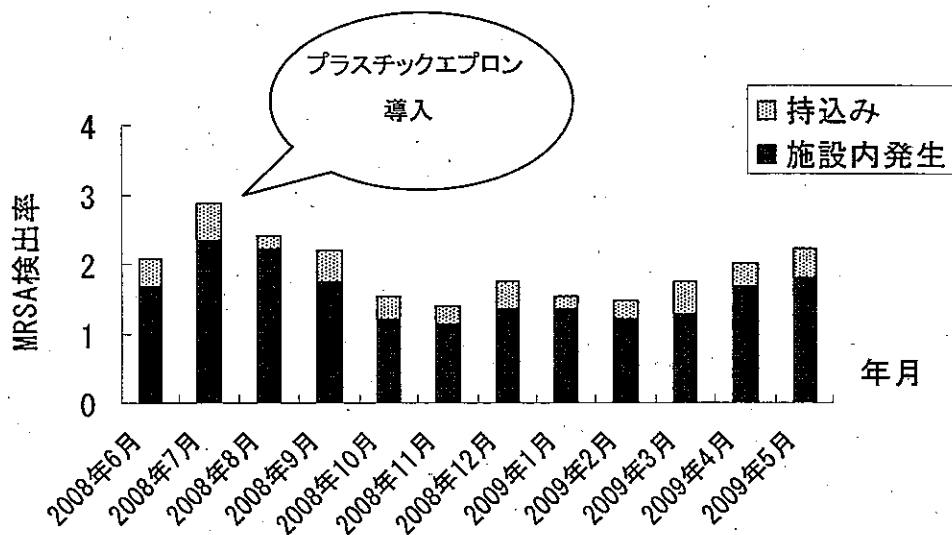


図. MRSA検出率

図 2008 年 6 月～2009 年 5 月の〇〇病棟における MRSA 検出率の推移

(注) MRSA 検出率 (件/1000 患者日) = 1000 患者日あたりの MRSA 検出件数
= MRSA 検出件数 ÷ のべ入院患者日数 × 1000

Ⅲ. ワークシート例 (MRSA 検出サーベイランス)

1. 分母データワークシート例

* 毎日〇時に入院患者数を記入し毎週あるいは月末に合計する。

〇年〇月	実施場所				備考
	〇〇病棟	△△病棟	◇◇病棟	▽▽病棟	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					
10日					
11日					
12日					
13日					
14日					
15日					
16日					
17日					
18日					
19日					
20日					
21日					
22日					
23日					
24日					
25日					
26日					
27日					
28日					
29日					
30日					
31日					
合計 (分母)					

2. 分子データワークシート例

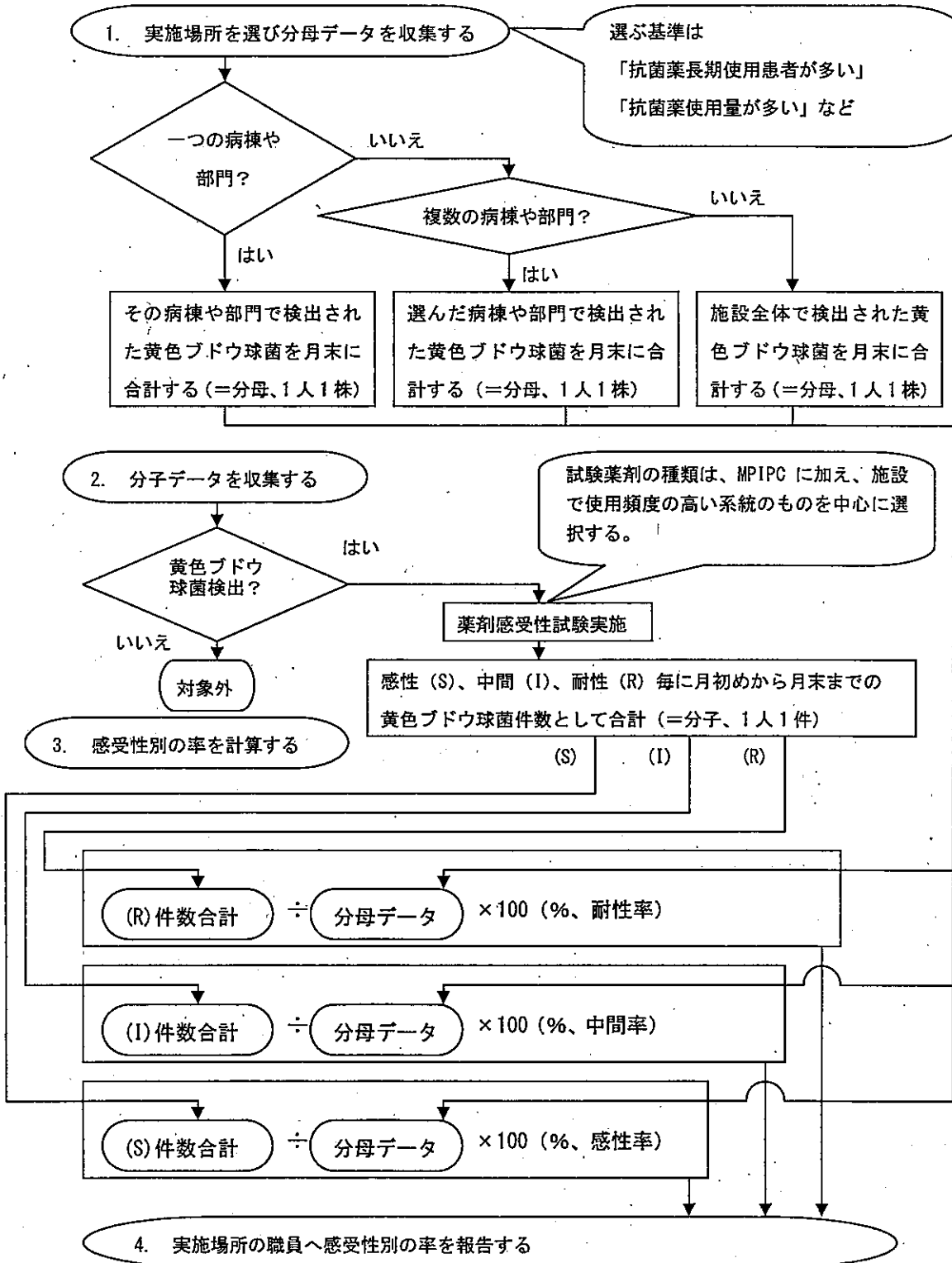
* 毎日〇時に MRSA 検出患者 ID (および検出部位) を記入する。

月末に検出件数合計を算出する。

〇年〇月	実施場所：〇〇病棟	備考
1日		
2日		
3日		
4日		
5日		
6日		
7日		
8日		
9日		
10日		
11日		
12日		
13日		
14日		
15日		
16日		
17日		
18日		
19日		
20日		
21日		
22日		
23日		
24日		
25日		
26日		
27日		
28日		
29日		
30日		
31日		
合計 (分子)		

B. 黄色ブドウ球菌薬剤感受性サーベイランス

I. 手順



II. 報告書例 (黄色ブドウ球菌感受性サーベイランス)

〇〇病棟 医長
〇〇様

2009年2月5日
感染管理担当 〇〇〇〇

黄色ブドウ球菌感受性サーベイランス報告

貴病棟の2008年度の黄色ブドウ球菌感受性サーベイランス結果をご報告します。
MPIPC 感受性は、上半期と下半期でほとんど変わらないため、検出された黄色ブドウ球菌に占める MRSA 率に変化ありませんが、ABK (★) では感受性が低下しております。
ABK の使用方法についてご再考ください。
ご不明な点がございましたら、〇〇 (内線〇〇) までご連絡ください。

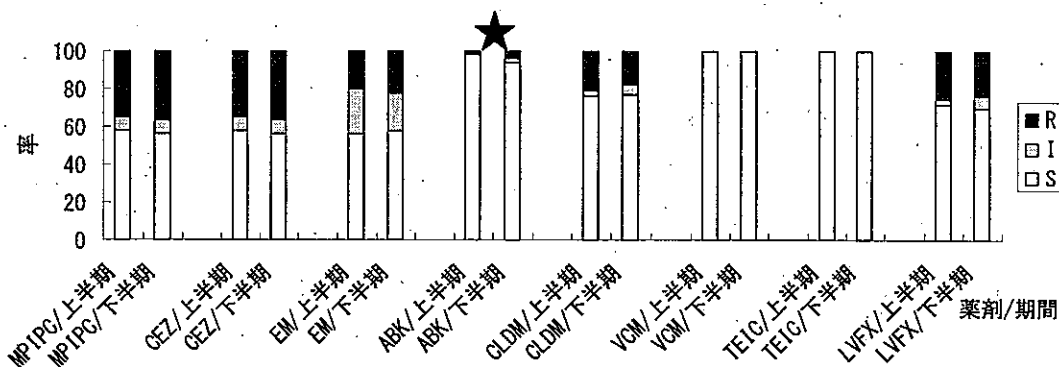


図. 感受性変化

図 2008年上半期～2008年下半期の〇〇病棟における黄色ブドウ球菌感受性率の推移
(注) 感受性率 (%)

= 期間中に検出された黄色ブドウ球菌あたりの感性 S・中間 I・耐性 R 菌件数
= $S \cdot I \cdot R \div \text{黄色ブドウ球菌検出数} \times 100$

Ⅲ. ワークシート例 (黄色ブドウ球菌感受性サーベイランス)

期間 月 日 ~ 月 日 病棟名

薬剤	感受性						検査合計	
	S	株	I	株	R	株	株	
MIPIC		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	
		%		%		%	100%	

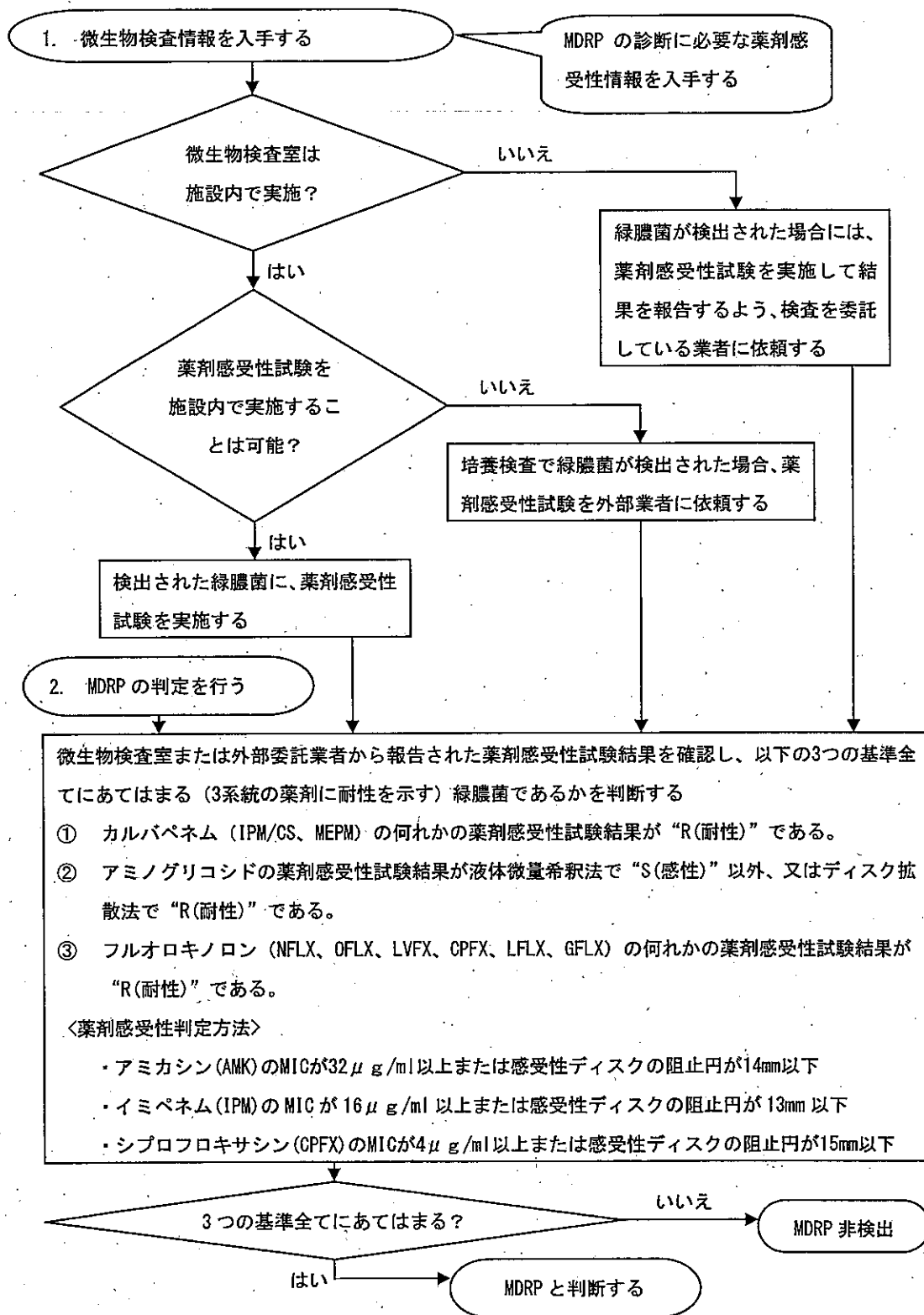
MIPIC=oxacillin

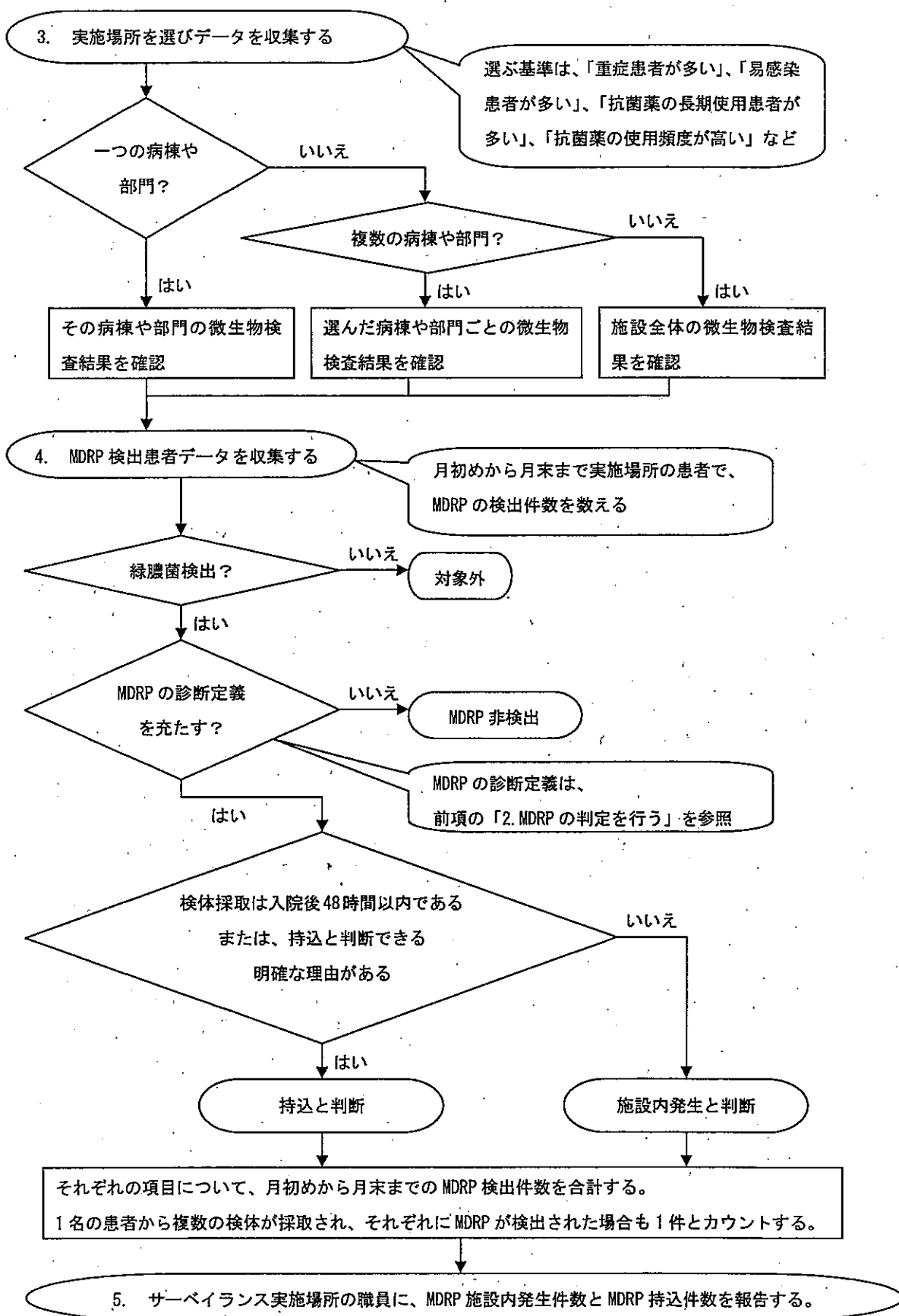
※薬剤空欄には各施設で使用している薬剤名を記載する。

S=感性 I=中間 R=耐性

MDRP (多剤耐性緑膿菌) サーベイランス

I. 手順





II. 報告書例

〇〇病棟 看護師長
〇〇様

2008年9月5日
感染管理担当 〇〇〇〇

MDRP(多剤耐性緑膿菌)サーベイランス報告

貴病棟の8月のMDRP(多剤耐性緑膿菌)サーベイランス結果をご報告します。

今年4月以降、MDRP 持ち込み患者が続いて確認されています。MDRP は、いずれも尿道留置カテーテルを使用している患者の尿検体から検出されています。現在までに施設内発生や施設内伝播が疑われる事例は確認されておりませんが、尿道留置カテーテル使用患者が多い貴病棟においては、十分な注意が必要です。MDRP 患者への接触感染対策(病室隔離、手指衛生、个人防护具の着用など)、他患者への標準予防策の遵守状況などを今一度御確認下さい。また、蓄尿バックからの尿の回収手技が、他施設で発生したアウトブレイク事例に共通する感染経路として報告されています。尿の回収手技の前後に実施する手指衛生、手袋、ガウンの交換等を徹底して下さい。

ご不明な点がございましたら、〇〇(内線〇〇)までご連絡ください。

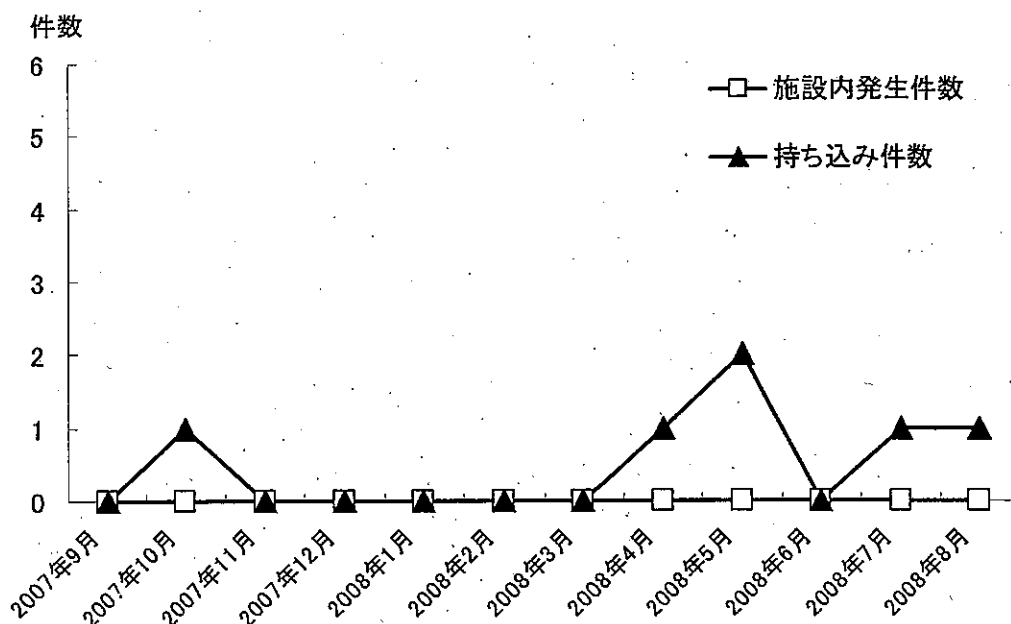


図 2007年9月～2008年8月の〇〇病棟における
MDRP 施設内発生件数、持ち込み件数の推移

Ⅲ. ワークシート例

MDRP (多剤耐性緑膿菌) 検出患者

ID _____ 氏名 _____ 病棟名 _____

微生物検査室または外部委託業者から報告された薬剤感受性試験結果を確認し、以下の3つの基準全てにあてはまる (3系統の薬剤に耐性を示す) 緑膿菌であるかを判断する

- ① カルバペネム (IPM/CS、MEPM) の何れかの薬剤感受性試験結果が“R(耐性)”である。
- ② アミノグリコシドの薬剤感受性試験結果が液体微量希釈法で“S(感性)”以外、又はディスク拡散法で“R(耐性)”である。
- ③ フルオロキノロン (NFLX、OFLX、LVFX、GPFX、LFLX、GFLX) の何れかの薬剤感受性試験結果が“R(耐性)”である。

〈薬剤感受性判定方法〉

- ・アミカシン (AMK) のMICが $32 \mu\text{g/ml}$ 以上または感受性ディスクの阻止円が14mm以下
- ・イミペネム (IPM) のMICが $16 \mu\text{g/ml}$ 以上または感受性ディスクの阻止円が13mm以下
- ・シプロフロキサシン (CIPX) のMICが $4 \mu\text{g/ml}$ 以上または感受性ディスクの阻止円が15mm以下

入院日 _____

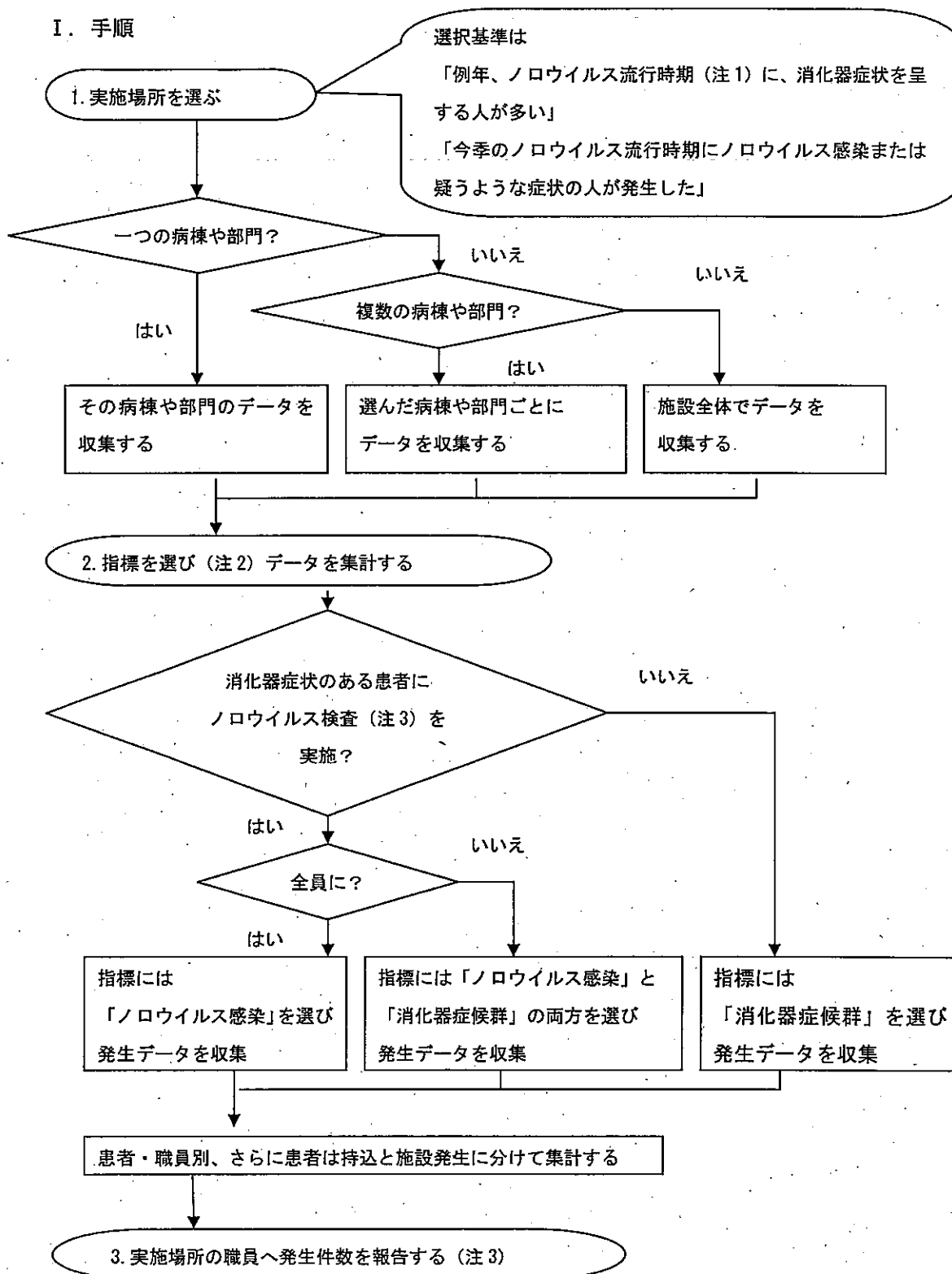
検体提出日 _____

検体名 _____ 下記より選択

喀出痰 気管内探痰 気管支洗浄液 咽頭粘液 鼻腔内 口腔内 生検材料(肺) その他(呼吸器)
自然排尿 採尿カテーテル尿 留置カテーテル尿 尿道分泌物 膣分泌物
カテーテル尿 (採尿、留置カテの区別不能) その他(泌尿・生殖)
糞便 胃・十二指腸液 胆汁 生検材料(消化管) その他(消化管)
静脈血 動脈血 髄液 胸水 腹水 関節液 骨髄液 心嚢水 その他(穿刺液)
耳分泌物 眼分泌物 皮膚 褥創 羊水 開放性膿 閉鎖性膿 創部 CAPD(持続腹膜透析)排液
中心静脈カテーテル先端 カテーテル刺入部 その他のカテーテル 胸腔ドレーン排液 胸腔ドレーン先端
腹腔ドレーン排液 腹腔ドレーン先端 ドレーン刺入部 その他のドレーン 生検材料(リンパ節)
その他の生検・手術材料 その他の材料 ()

ノロウイルス感染&消化器症候群サーベイランス

I. 手順



注1 流行時期

例年の流行時期に準じて10月～3月。

ただし、毎年流行時期、程度、ピーク時期が異なるため、感染症発生動向調査結果等の情報を参考にする。

(参考) 国立感染症研究所感染症情報センター最新のウイルス検出状況 SRSV&ロタウイルス
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-kj.html>

注2 指標の選択基準

1. 消化器症状のある患者全員に対してノロウイルス検査が実施されている場合
→「ノロウイルス感染」のみ
2. 消化器症状のある患者の全員または一部にノロウイルス検査を実施している場合
→「ノロウイルス感染」と「消化器症候群」の両方
(「ノロウイルス感染」の他に「消化器症候群」を数えることで、検査感度による偽陰性や検査未実施による除外例も拾うことができる)
3. ノロウイルス検査が全く実施されていない場合
→「消化器症候群」のみ

注3 ノロウイルス検査

次のいずれかの検査。

1. ノロウイルス抗原検査 (イムノクロマト法, ELISA法)
2. ノロウイルス遺伝子検査 (RT-PCR法, NASBA法, RT-LAMP法, TRC法, SMAP法)

注4 報告頻度の目安

発生頻度の少ない時は、週1回程度の頻度で報告を行う。ただし、「同日に複数の発生が認められる」または「連日にわたり発生が認められる」場合は、報告頻度を増す。流行の終息が確認できたら、元の頻度に戻す。

Ⅱ. 報告書例

〇〇病棟 各位

2008年12月7日

感染管理担当 ○〇〇〇

ノロウイルス感染&消化器症候群サーベイランス報告

ノロウイルス感染&消化器症候群サーベイランスの報告をいたします。

12月に入り散発での患者発生が認められていましたが、6日より急激に発生件数が増加し、病棟内での伝播が強く疑われます。さらに接触した職員にも感染が拡大しております。

ノロウイルスの感染力は非常に強いため、少量のウイルスでも感染するといわれています。消化器症状のある患者には、早めに接触予防策を実施してください。特に、吐物や便には大量のウイルスが存在していますので、取り扱いの際は、手袋、サージカルマスク、アイソレーションガウンを着用し、周囲環境を汚染しないよう十分に留意してください。また、アルコールに抵抗性がありますので、流水での手洗いの徹底をお願いいたします。ケアにあたる職員の皆様も健康管理には十分ご注意ください。

その他、ご不明な点がございましたら、〇〇（内線〇〇）までご連絡ください。

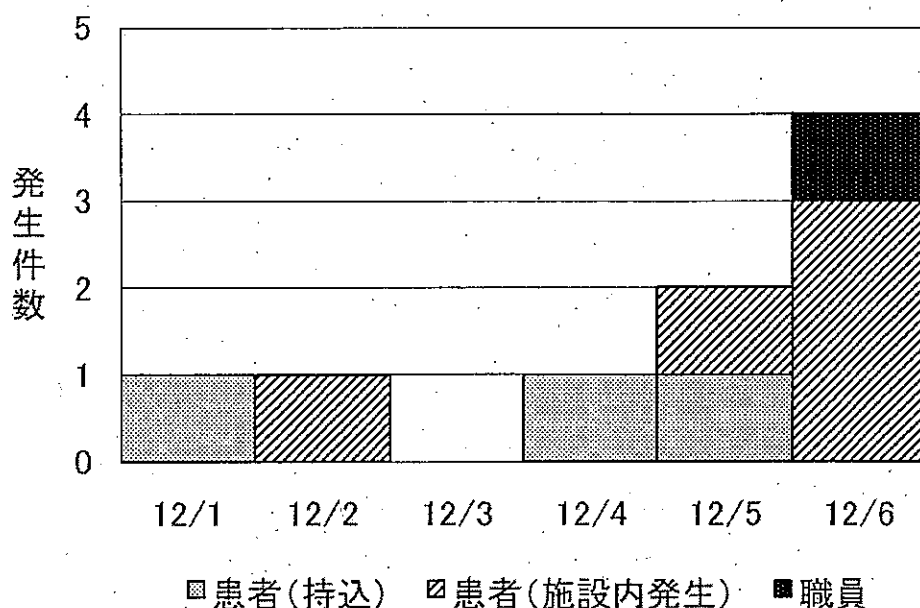
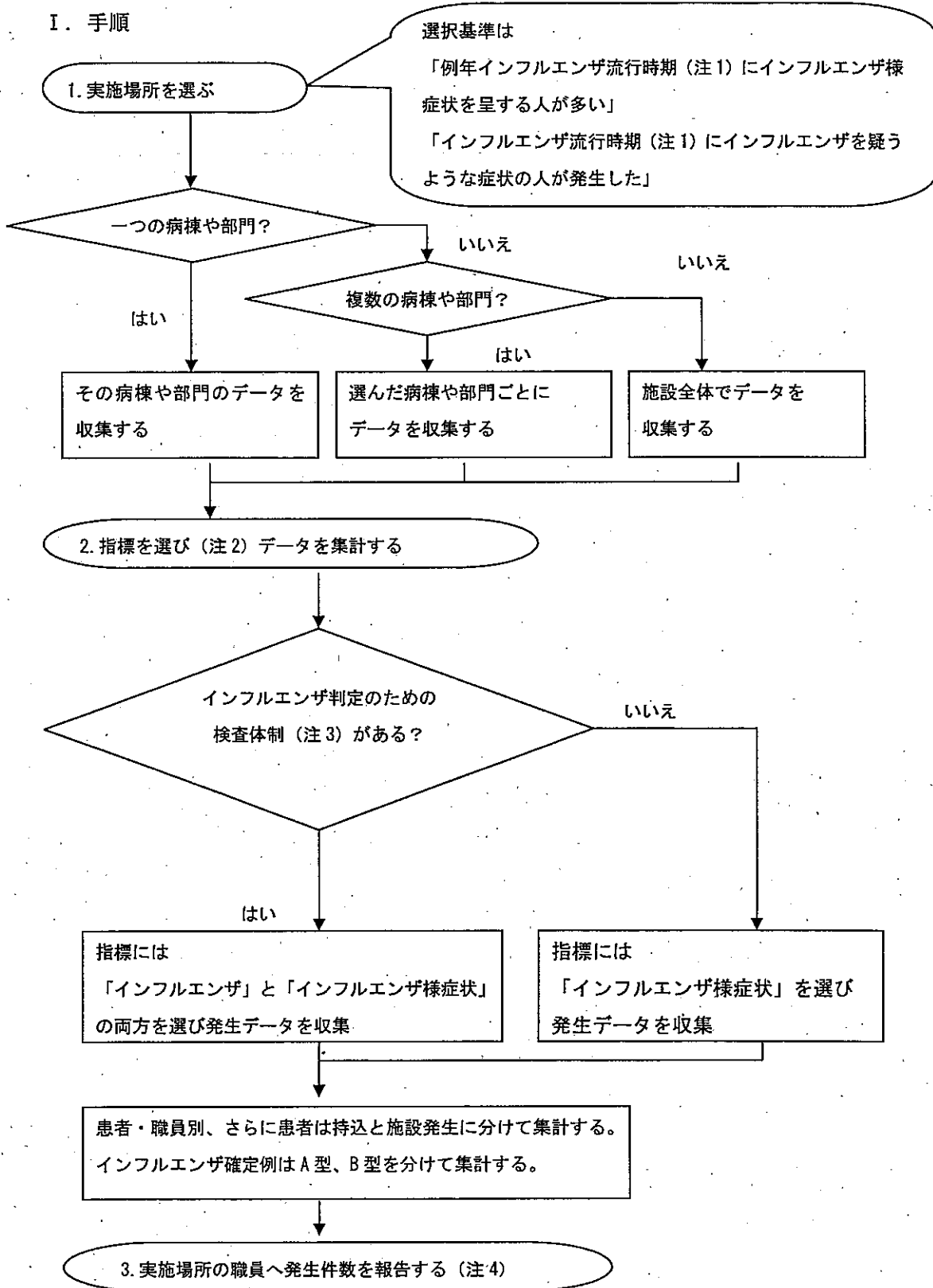


図 2008年12月の〇〇病棟における「ノロウイルス感染&消化器症候群発生件数」の推移
発生件数は「ノロウイルス感染」および「消化器症候群」と判定された件数

インフルエンザ&インフルエンザ様症状サーベイランス

I. 手順



注1 インフルエンザ流行時期

例年の流行時期に準じて10月～5月。ただし、地域や年により流行時期、程度、ピーク時期が異なるため、感染症発生動向調査結果等の情報を参考にする。

(参考) 国立感染症研究所感染症情報センターインフルエンザ流行レベルマップ

<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Hasseidoko/Levelmap/flu/index.html>

注2 指標の選択基準

1. インフルエンザ判定のための検査体制(注3)がある場合
→「インフルエンザ」と「インフルエンザ様症状」の両方
(「インフルエンザ」の他に「インフルエンザ様症状」を数えることで、検査感度による偽陰性や検査未実施による除外例も拾うことができる)
2. インフルエンザ判定のための検査体制(注3)がない場合
→「インフルエンザ様症状」のみ

注3 インフルエンザ判定のための検査体制

以下のいずれかが実施できる。

1. 迅速キットにて抗原陽性反応(咽頭または鼻腔の拭い液あるいはうがい液)
2. 検体から直接PCR法によるインフルエンザウイルス遺伝子の検出
3. 中和試験による抗体の検出(ペア血清による抗体価の有意な上昇)

注4 報告頻度の目安

発生頻度が少ない場合は週1回程度の間隔で報告を行う。ただし、「同日に複数名の発生が認められる場合」もしくは「連日にわたり発生が認められる場合」は、報告頻度を増やす。潜伏期間を過ぎても新たに発生が認められない場合は週単位もしくはそれ以上の単位で報告する。

II. 報告書例

職員各位

2009 年 12 月 10 日

感染管理担当 ○○○○

インフルエンザ&インフルエンザ様症状サーベイランス報告

インフルエンザ&インフルエンザ様症状サーベイランスの報告をいたします。

12 月に入り、職員に連日インフルエンザが発症しました。次いで職員から患者への伝播が確認されました。今月 7 日以降、職員ならびに患者の施設内発生はありません。しかし、〇〇市全域でインフルエンザ流行の兆しがあること、連日患者の持込例もあることなどから引き続き注意が必要です。

ワクチン未接種の職員は、〇〇課に連絡し、早急にワクチンを接種してください。また、インフルエンザ様症状を有する職員がいる部署の責任者は有症状職員の勤務調整を行い、休暇を配慮してください。症状のない職員も規則正しい生活を心がけ、十分な休養を取り、健康管理に留意してください。

インフルエンザの基本対策は飛沫、接触予防策です。必要な場面でのマスクの着用と手指衛生の遵守を継続してください。

その他、ご不明な点がありましたら、〇〇（内線〇〇）までご連絡ください。

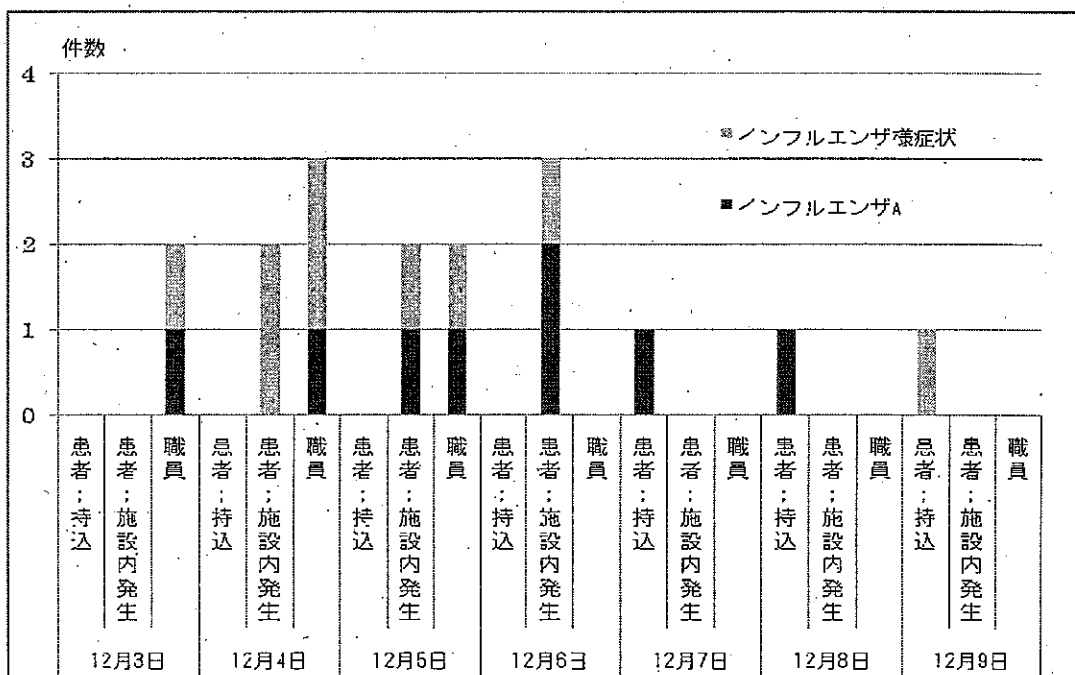
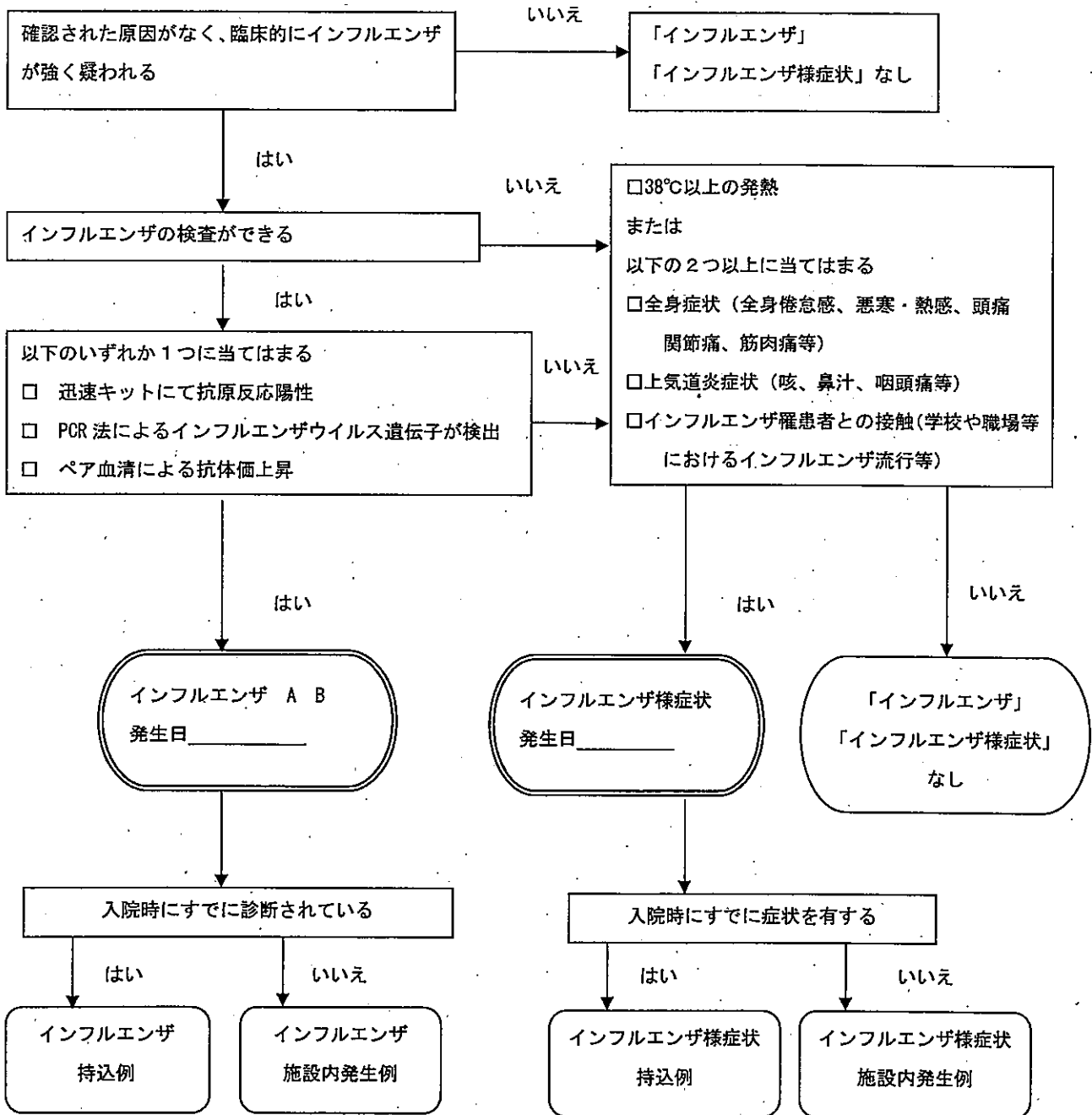


図 2009 年 12 月「インフルエンザ&インフルエンザ様症状発生件数」の推移

Ⅲ. ワークシート例

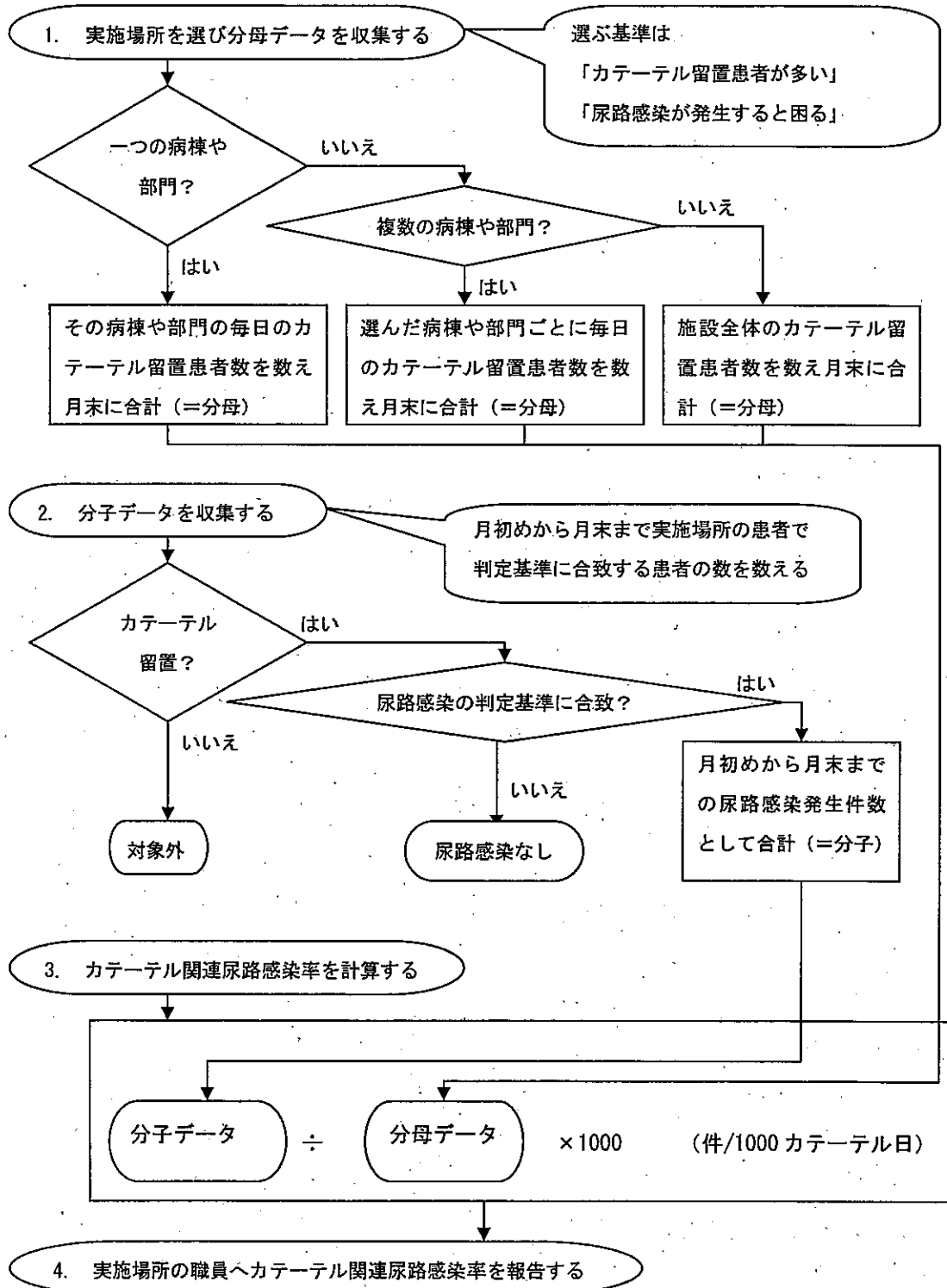
ID _____ 氏名 _____ 年齢 _____ 病棟名 _____



※ 職員の場合は「持ち込み」「施設内発生」の区別は行わない

カテーテル関連尿路感染サーベイランス

I. 手順



II. 報告書例

〇〇病棟 看護師長
〇〇様

2009年6月5日
感染管理担当 〇〇〇〇

カテーテル関連尿路感染サーベイランス報告

貴病棟の5月のカテーテル関連尿路感染サーベイランス結果をご報告します。

昨年10月の閉鎖式カテーテル使用開始後は感染率が低く推移しておりましたが、先月4月以降、再び上昇の兆しがあります。カテーテルの管理方法を再度ご点検ください。

ご不明な点がありましたら、〇〇（内線〇〇）までご連絡ください。

感染率（件/1000カテーテル日）（注）

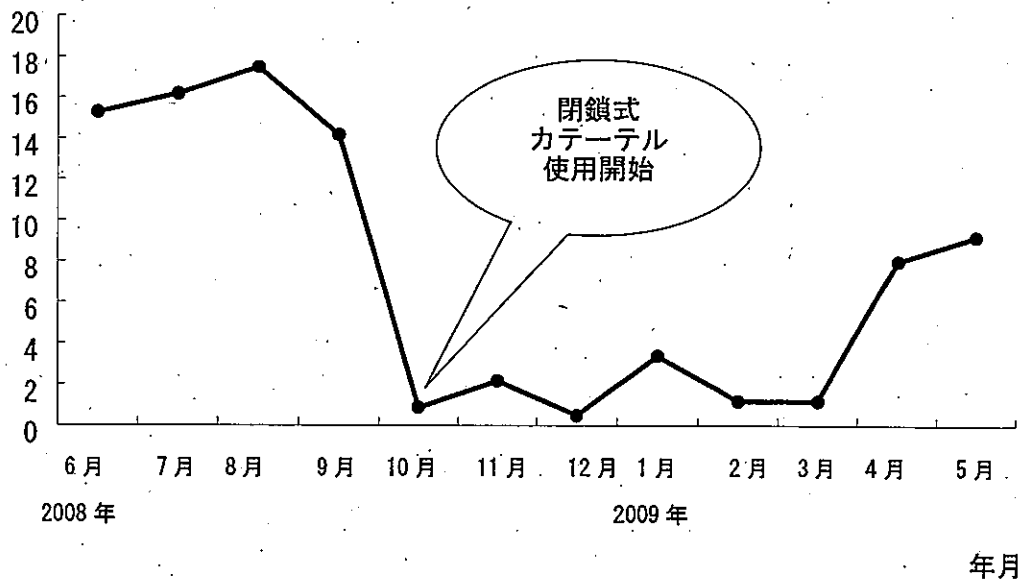


図 2008年6月～2009年5月の〇〇病棟におけるカテーテル関連尿路感染率の推移

（注）感染率（件/1000カテーテル日）

＝カテーテル使用1000日あたりの尿路感染発生件数

＝尿路感染発生件数÷尿路カテーテル使用日数合計×1000

* 尿路感染発生件数は「症候性尿路感染」と判定された件数

Ⅲ. ワークシート例

1. 分母データワークシート例

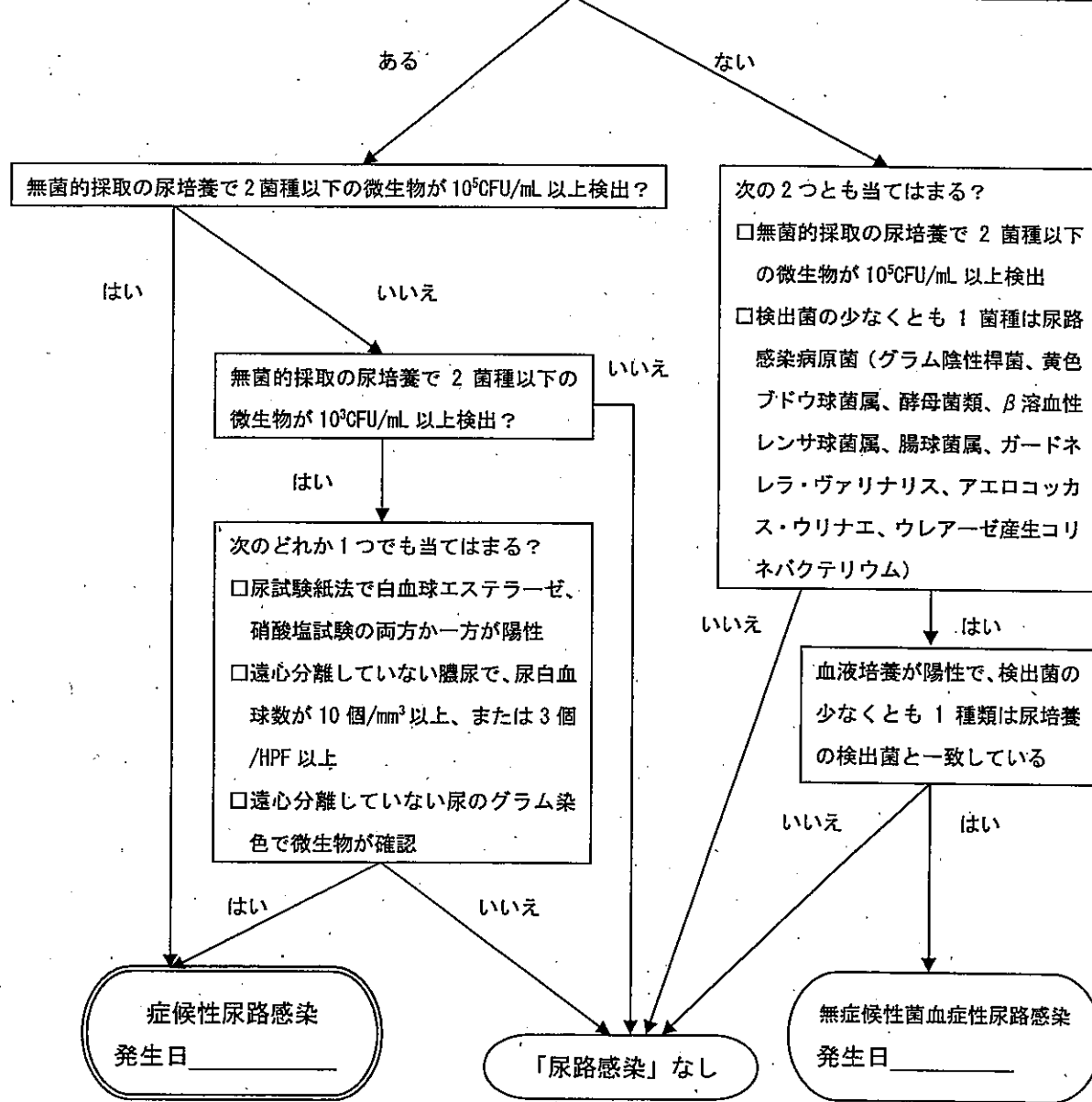
* 毎日〇時にカテーテルが留置されている患者の数を記入し月末に合計する。

〇年〇月	実施場所				備考
	〇〇病棟	△△病棟	◇◇病棟	▽▽病棟	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					
10日					
11日					
12日					
13日					
14日					
15日					
16日					
17日					
18日					
19日					
20日					
21日					
22日					
23日					
24日					
25日					
26日					
27日					
28日					
29日					
30日					
31日					
合計(分母)					

2. 分子データワークシート例

カテーテル留置患者 ID _____ 氏名 _____ 年齢 _____ 病棟名 _____

カテーテル留置中または抜去後 48 時間以内に、他に確認された原因がなく次の徴候や症状が 1 つ以上ある？
 65 歳以上： 恥骨上の圧痛 肋骨脊柱角痛または圧痛 尿意切迫 頻尿 排尿障害
 1～65 歳： 発熱 (>38°C) 恥骨上の圧痛 肋骨脊柱角痛または圧痛 尿意切迫 頻尿 排尿障害
 1 歳以下： 発熱 (>38°C、直腸温) 低体温 (<36°C、直腸温) 無呼吸 徐脈 排尿障害 傾眠 嘔吐



* 「症候性尿路感染」のみ数えるか、「無症候性菌血症性尿路感染」も別に数えるかは、施設で判断。

